



2021年3月期 連結業績概要

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

2021年5月12日

フジテック株式会社

(東証一部：6406)

【2021年3月期連結業績の概況】

- 売上高はCOVID-19の影響で前期比6.4%減少したが、営業利益は前年と同水準
- 新設事業は経済活動の抑制で落ち込む。アフターサービス事業は保守が社会インフラ維持として堅調に推移。
- セグメント別では日本、東アジア、南アジアが増益に対し、北米が減益
- 新生活様式の対応として新設・既設ともにラインナップを拡充。エレベータをタッチレスで操作できる「エアータップ」が好調。エスカレータのハンドレール除菌装置なども商品化。

【2022年3月期連結業績の計画】

- 経済活動の正常化と生産効率化・保守事業拡大により増収増益を計画
- 投資計画は、年間119億円。インド工場拡張など事業拡大に向けて積極的な投資を実行
- 国内外M&Aに向けてプライベートファンドを設立

【コーポレート・ガバナンス強化の取り組み】

- 今年2月、指名・報酬諮問委員会を設置。取締役2名の選任など答申
- 譲渡制限付株式報酬制度の導入を予定

2021年3月期連結業績の概況



クリエイティブ スタジオ 東京（東京都港区）

連結業績ハイライト

FUJITEC

- 売上高は前期比6.4%減、利益は前年と同水準。COVID-19の影響は回復傾向

(単位：百万円)

	2020/3	2021/3	前期比(%)
売上高	181,232	169,573	△6.4
営業利益	13,375	13,288	△0.6
営業利益率	7.4%	7.8%	—
経常利益	14,682	14,633	△0.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,916	9,287	△6.3
1株当たり当期純利益	122.46円	114.52円	—
ROE	9.5%	8.5%	—

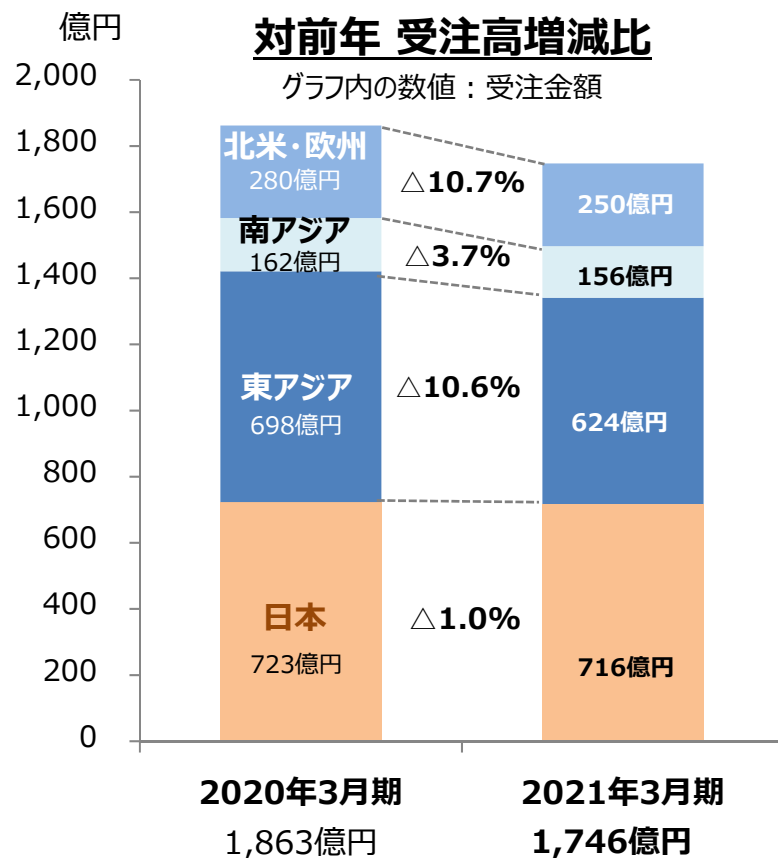
対米ドル円為替レート

109.36円

106.94円

受注高

- 当期受注高は、前期比6.3%減。日本、シンガポールのアフタマーケット事業が堅調



2021年3月期 受注高概況

【国内受注】 716億円 (前期比1.0%減)

- COVID-19の影響でマンション・ホテルの新設需要は低調
- アフタマーケット事業が堅調。モダニゼーション工事は官公庁向けで増加、保守契約率が向上

【海外受注】 1030億円 (前期比9.6%減)

- 中国で新設案件は減少
- 南アジアはシンガポールでアフタマーケット事業が堅調
- 北米は、米国でアフタマーケット、カナダで新設案件は減少

セグメント別業績



- 全セグメントで、前期比減収となるが、日本・東アジア・南アジアで増益を確保

(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	2020/3	2021/3	増減(%)	2020/3	2021/3	増減額
日本	74,751	71,859	△3.9	4,891	5,330	438
東アジア	74,748	69,800	△6.6	5,297	5,328	30
南アジア	16,379	13,785	△15.8	2,135	2,160	25
北米・欧州	25,443	23,450	△7.8	1,045	502	△542
小計	191,323	178,895	△6.5	13,370	13,321	△48
調整額	△10,091	△9,321	—	5	△32	△37
合計	181,232	169,573	△6.4	13,375	13,288	△86

連結業績分析（セグメント別）

	主な要因
日本	<ul style="list-style-type: none"> ● 新設事業は、COVID-19の影響でマンションやホテルの需要減少が売上に影響 ● アフターマーケット事業は、保守が堅調に推移。モダニゼーション事業が第3四半期以降に復調 ● 利益では、コスト改善（生産自動化、物流効率化）とアフターマーケット事業が寄与 ● 保守事業で、契約率向上とコスト改善が収益に貢献
東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上は、中国で中小案件が減少 ● 香港で、新設・保守が堅調に推移。台湾・韓国で売上減 ● 利益は、中国で工場稼働率の向上と、機種統合によるコストダウンが貢献 ● 香港と韓国の収益性改善、台湾の採算性が低下
南アジア	<ul style="list-style-type: none"> ● シンガポールで、大型修理案件の獲得が利益に寄与 ● インドネシア、マレーシア、インドで新設工事の減少で売上減 ● インドで、コストダウンが進み収益性が改善
北米・欧州	<ul style="list-style-type: none"> ● 英国で、新規子会社の連結加入により売上増加 ● 米国・カナダでのCOVID-19の影響による、売上減少が響き、大幅減益

トピックス

FUJITEC

● 標準型マシルームレス・エレベータ「エクシオール」販売開始

- 「エクシオール」をフルモデルチェンジ。「クーラー」や「エアータップ」など先進技術を業界で初めて標準装備。従来の標準型エレベータを超える機能・性能・デザインと、適用範囲の拡大で標準機のシェアアップを目指す



● エアータップ（エレベータ用非接触ボタン）のラインアップ拡充と標準化

- 公衆衛生に対する意識の高まりから、エレベータの機能として急速にニーズが拡大。GINZA PLACE、横浜ハンマーヘッドなど、新設・既設問わず設置が進む。新生活様式への対応は、エスカレータ除菌装置などに広げる



● クリエイティブスタジオ・東京フィットのオープン

- 昨年6月、ショールーム「クリエイティブスタジオ」をビッグウイング、東京本社、ビッグステップに開設。また昨年10月には、「東京フィット」をオープン。首都圏地域のフィールド技術者向け研修施設「エクスペリエンスセンター東京」と物流拠点「東京デポ」を併設

● 保守業務向け地図システムが「IT賞」受賞

- 納入物件情報をスマートフォンなどで閲覧できる地図システムが、公益社団法人企業情報化協会「IT賞」を受賞



2022年3月期連結業績の計画



クリエイティブ スタジオ ビッグウィング（滋賀県彦根市）

連結業績の計画

FUJITEC

- 2022年3月期の連結業績は、増収増益を計画
- 売上高は1840億円で最高を更新。営業利益は原価削減策などが進み改善

(金額単位：百万円未満切り捨て)

	2020/3	2021/3	2022/3 (計画)	当期比 増減率(%)
売上高	181,232	169,573	184,000	8.5
営業利益	13,375	13,288	13,900	4.6
経常利益	14,682	14,633	14,400	△1.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,916	9,287	9,300	0.1
1株当たり当期純利益	122.46円	114.52円	114.68円	—

連結業績セグメント別の計画

FUJITEC

- 売上高は、大きく回復し、全セグメントで増収を計画
- 営業損益は、北米・欧州が改善

(金額単位：百万円未満切り捨て)

	売上高				営業損益			
	2020/3	2021/3	2022/3 (計画)	当期比 増減 (%)	2020/3	2021/3	2022/3 (計画)	当期比 増減額
日 本	74,751	71,859	75,000	4.4	4,891	5,330	5,400	69
東 ア ジ ア	74,748	69,800	73,000	4.6	5,297	5,328	5,100	△228
南 ア ジ ア	16,379	13,785	17,000	23.3	2,135	2,160	2,200	39
北米・欧州	25,443	23,450	28,000	19.4	1,045	502	1,300	797
小 計	191,323	178,895	193,000	7.9	13,370	13,321	14,000	678
調 整 額	△10,091	△9,321	△9,000	—	5	△32	△100	△67
合 計	181,232	169,573	184,000	8.5	13,375	13,288	13,900	611

今期の計画方針

FUJITEC

- お客さまや関係先、従業員の“安全・安心”を最優先とした活動を継続
- 売上高は最高を更新、収益力の向上で企業価値向上を目指す

【重点目標】

- 国内外大型プロジェクトの完遂など、地域戦略の確実な実行
- モダニゼーション・保守の拡大に向けたアフターマーケット事業への注力
- 中国・南アジアの成長市場での事業拡大
- 業務プロセス改革による収益性向上

【経営基盤の構築】

- “戦略的方向性”の実現に向けた事業体制の構築と積極的な投資
- ガバナンス体制の強化（諮問委員会の設置など）

重点目標：地域戦略

FUJITEC

【日本】

- 首都圏と近畿で、大型プロジェクトの工事が本格化
- 好評の非接触ボタン「エアータップ」を搭載した標準機の受注・売上拡大
- 保守事業の拡大を継続

【東アジア】

- 中国は、コスト競争力に優れた商品による事業拡大と大型案件獲得で知名度向上に注力
- 香港・台湾・韓国は売上拡大、台湾は収益改善を目指す

【南アジア】

- シンガポールを軸とした地域販売体制の構築
- 新標準機による売上拡大による収益性の改善

【北米・欧州】

- 北米は経済活動の回復で売上拡大と収益回復を見込む



エアータップ

重点目標：アフターマーケット事業への注力

FUJITEC

・ モダニゼーション・保守の拡大に向けた体制の構築

【組織体制】

- ・ サービス事業本部の新設（開発から保守の一貫体制強化）
- ・ グローバル市場のモダニゼーション事業を支援する専任組織の設置

【モダニゼーション事業】

- ・ モダニゼーション用機器の開発、パッケージ商品の投入、据付工法改善による競争力向上
- ・ 協力会社の拡充と技能強化

【保守事業】

- ・ 大型案件の獲得、契約率向上による事業基盤の拡大
- ・ 技術革新による省力化（IT活用と高速通信インフラ整備）

重点目標：成長市場での事業拡大

FUJITEC

- 中国と南アジアに注力。事業推進体制の強化と、グローバル標準機種を中心としたコストダウンを推進

【事業体制】

- 中国での直販体制と大型案件の獲得によるブランド力向上
- シンガポールを軸とした南アジア地域販売体制の構築
- インド工場拡張と研究塔建設によるグローバル標準機種の開発・生産体制の確立

【コストダウン】

- 中国・インドで、コストダウン推進
- コスト競争力に優れたグローバル標準機種の供給体制確立



インド工場・研究塔 完成予想図

重点目標：収益力向上

- グローバル生産体制とITの活用による業務プロセス革新で収益性向上を目指す

【新設事業】

- 3Dデザインシミュレータと基幹システムのデータ連携による販売・設計・生産の自動化
- オーダー機種の生産プロセス改革によるコストダウン推進
- 生産自動化とグローバル調達による製造コストの削減

【アフターマーケット事業】

- 解析技術を活用した、部品・機能開発、故障予知の高度化によるコストダウン
- 保守業務のコストダウンとサービス品質の向上を実現する「地図システム」の海外展開



3Dデザインシミュレータのイメージ

投資計画

- 総額119億円規模の投資を実施

【国内】 約38億円

- エレベータ生産自動化他： 11億円
- エスカレータ生産自動化他：10億円
- IT化推進：9億円

【グローバル】 約31億円

- インド工場拡張・研究塔建設他：16億円
- 中国生産設備増強他：6億円
- 台湾生産設備増強他：5億円

【その他】 投資枠50億円

- 国内外M&A加速に向けたプライベートファンド設立

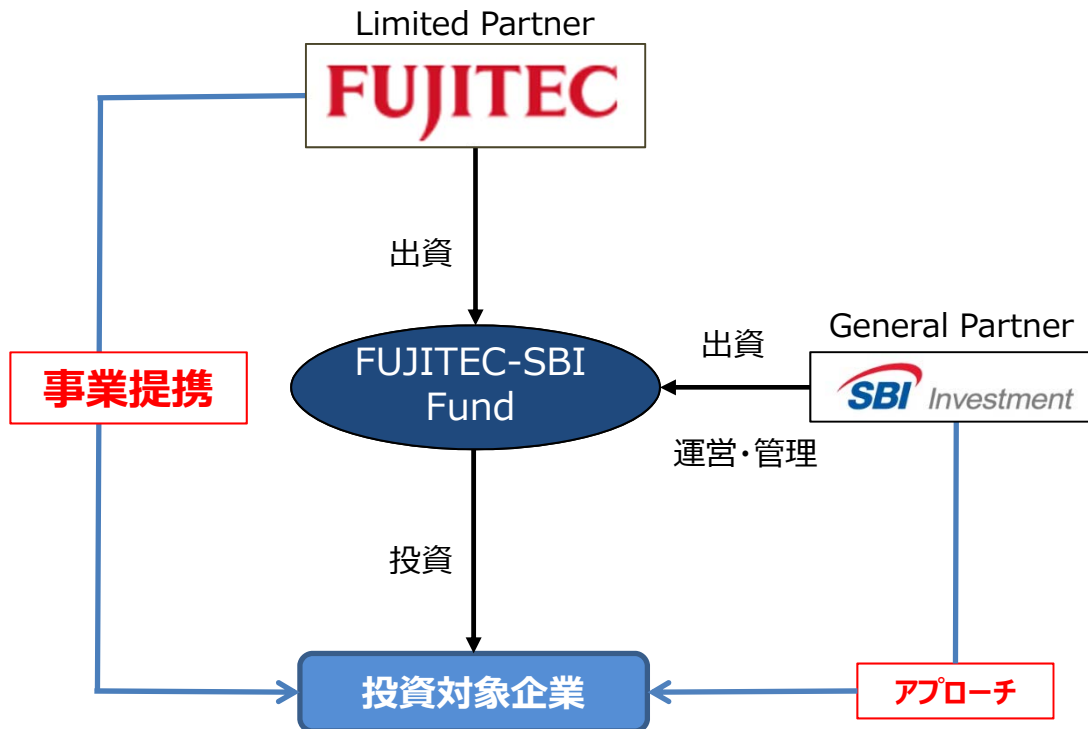


エレベータ生産自動化設備

プライベートファンドの設立

- 国内外M&Aの加速に向けて、プライベートファンド（FUJITEC-SBI Fund）を設立

FUJITEC-SBI Fundのスキーム



ファンドの概要

設立日： 2021年5月12日

運用期間： 5年間

運用会社： SBIインベストメント株式会社

投資対象： 当社と事業シナジーが見込まれる国内外の未公開企業

ファンド規模： 50億円

“戦略的方向性”の実行

主な進捗内容

- 自己株式の消却
 - ・ 消却日：2020年12月11日
 - ・ 消却株数：4,767,000株（発行済株式数対比約5%）
 - ・ 保有自己株式の用途：従業員持株信託、役員報酬制度、M&Aなどに活用
- 指名・報酬諮問委員会の設置
 - ・ 設置日：2021年2月9日
 - ・ 構成：委員長（社外取締役）、委員構成：社外2名、社内1名
 - ・ 取締役2名の選任などの答申
- 取締役会の多様性
 - ・ 社外独立取締役を5名（全9名）を維持し、女性取締役は2名（予定）
- 譲渡制限付株式報酬制度の導入（予定）
- 取締役会の開催数増加
 - ・ 年間8回以上に。意思決定の迅速化を目指す

配当の状況

- 当期配当は、1株当たり年間配当60円を予定
- 株主還元強化として、配当性向50%以上の水準を目指す。今期の配当性向は、52.3%を計画

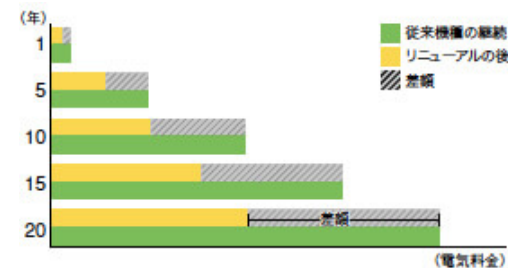
(単位：円)

	2020/3	2021/3	2022/3 (計画)
配当金	50	60	60
中間	20	20	25
期末	30	40	35
配当性向	40.8%	52.4%	52.3%

持続可能な社会の実現

● エレベータのリニューアルで、消費電力を最大50%削減

- 巻上機をギア付きからギアレスモーターに交換で機械効率が向上し、電力制御をインバータ方式に変更で細かな速度調整を実現。低電力化でCO2削減に貢献



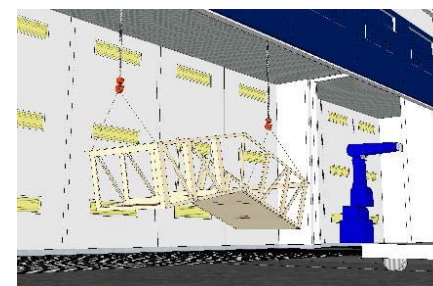
リニューアル時の電気料金推移イメージ
(当社公式サイトより)

● エスカレータのリニューアルで、環境性能向上

- 当社独自のリニューアル工法（フィットinトラス・ユニットinトラス）は、既設の構造（トラス）を使用するため、新造や廃棄が不要で、製作、運搬、処理等のCO2排出量を削減します。また、エネルギー効率の高い駆動装置への更新や照明のLED化で消費電力を最大50%まで削減

● エスカレータの生産自動化による環境改善

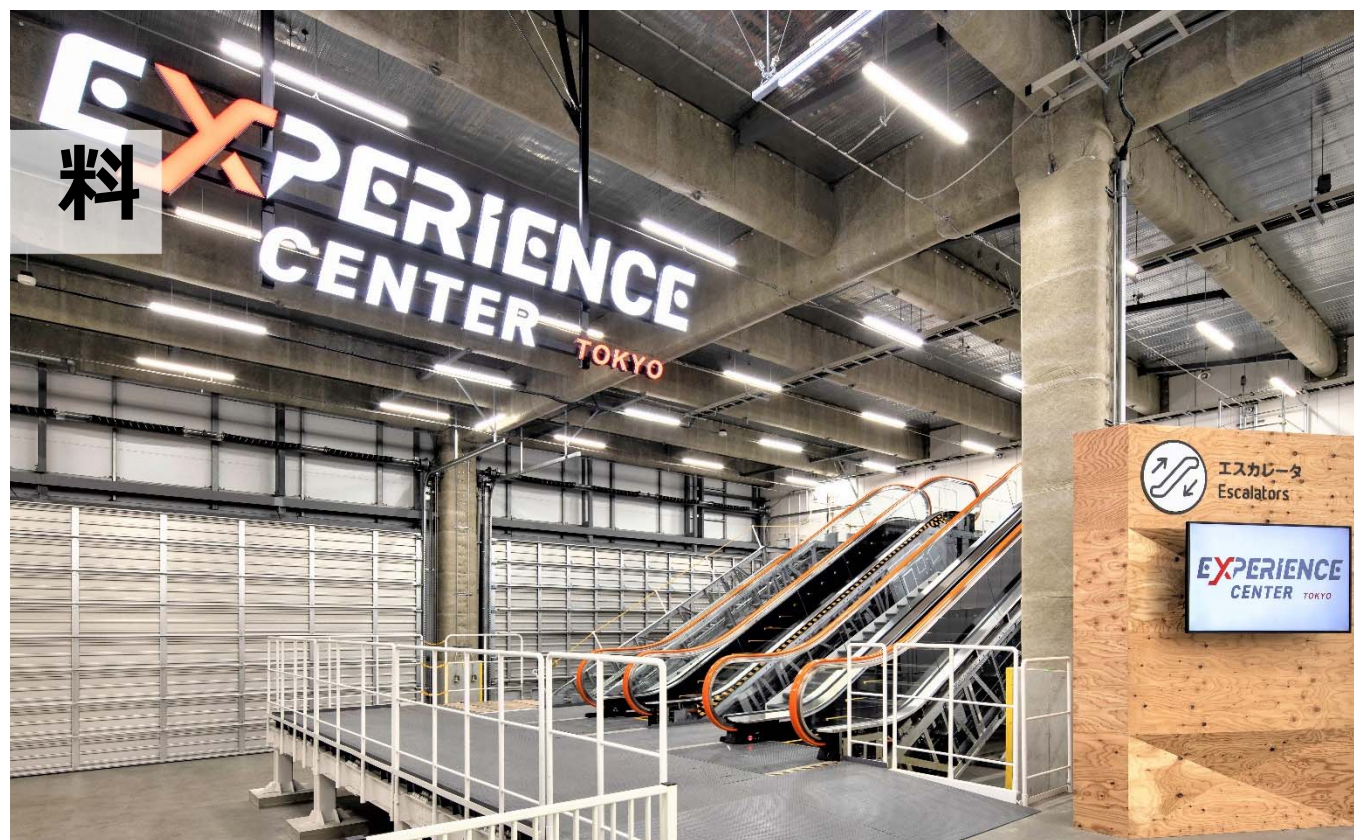
- 自動塗装ロボットの導入で、自然環境への効果、従業員の作業環境を改善。最新機器の活用による省エネルギー化、溶接ヒューム削減・設備密閉強化による、塗装粉塵の飛散抑止で環境負荷低減に貢献



自動塗装設備の完成イメージ

FUJITEC

参 考 資 料



研修施設「エクスペリエンスセンター東京」（東京都大田区）

連結貸借対照表

FUJITEC

(単位：百万円)

	2020/3末	2021/3末	増減額	備考
流動資産	140,884	149,393	8,509	
現金及び預金	57,024	68,348	11,324	日本、東アジアでの増加
受取手形及び売掛金	61,626	59,022	△2,603	日本での減少
棚卸資産	19,321	19,247	△74	
その他	5,053	5,150	96	
貸倒引当金	△2,142	△2,375	△233	
固定資産	52,697	55,803	3,105	
有形固定資産	34,188	33,786	△401	設備投資+2,638 減価償却△3,130 為替ほか+91
無形固定資産	3,640	4,680	1,039	英国での企業買収によるのれんの増加+1,196
投資その他の資産	14,868	17,336	2,467	株価上昇による投資有価証券の評価額増加+2,119
総資産	193,581	205,196	11,614	
流動負債	70,083	74,152	4,068	工事損失引当金+2,555 前受金+2,203 未払法人税等+1,246 短期借入金△1,672
固定負債	4,783	5,778	995	
純資産	118,714	125,264	6,550	親会社株主に帰属する当期純利益+9,287 配当金△4,054 その他有価証券評価差額金+1,486 為替換算調整勘定△1,977
自己資本比率	55.2%	54.8%	△0.4%	
B P S	1,318.59円	1,385.45円	66.86円	

キャッシュフローの状況

FUJITEC

(単位：百万円)

	2020/3	2021/3	増減額
現金及び現金同等物 期首残高	25,902	28,181	2,278
営業活動キャッシュ・フロー	11,078	21,542	10,464
投資活動キャッシュ・フロー	△4,341	△7,955	△3,614
フリーキャッシュ・フロー	6,736	13,586	6,850
財務活動キャッシュ・フロー	△3,800	△5,866	△2,065
現金及び現金同等物 期末残高	28,181	35,840	7,658

● 安全対策の徹底

- ✓ お客さまや関係先、従業員の“安全・安心”の確保を最優先に感染症拡大の防止
- ✓ 各国の感染状況や政府の要請に従い、在宅勤務・直行直帰等の柔軟な勤務体系により、3密回避を継続

● 保守活動の継続

- ✓ 従業員の感染予防を徹底し、社会基盤に不可欠な業務としてエレベータ・エスカレータの“安全・安心”の維持に尽力

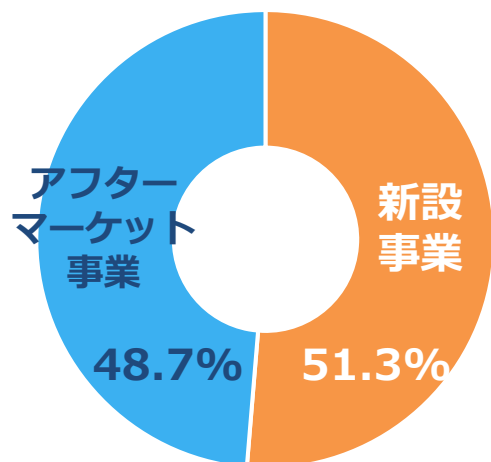
● 事業活動の状況

- ✓ 受注： 概ね世界的に受注活動の回復は緩やか。大型案件・官庁系は堅調。中小は資金繰りや先行きの不透明感より停滞傾向
- ✓ 売上： 各国で受注済の計画案件は順調に工事進行
- ✓ 商品開発： エレベータをタッチレスで操作できる「エアータップ」、エスカレータ除菌装置をはじめ、「新しい生活様式」に対応した商品を新設・既設に拡充。

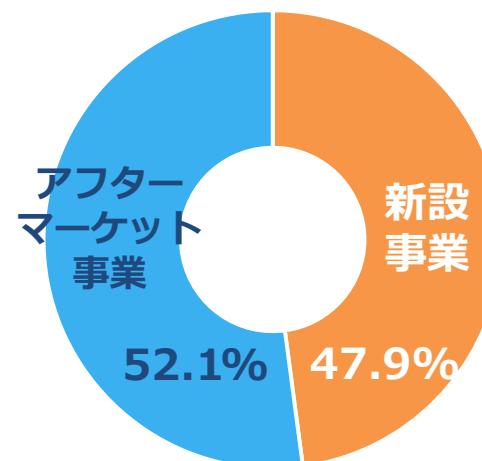
事業別売上高構成比率の変化

- COVID-19の影響と保守契約率の向上で、アフターマーケット事業は堅調

2020年3月期



2021年3月期



主な受注・納入実績



新設工事

完成



ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜
横浜バイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート
(日本・横浜)
エレベータ12台

受注



オハイオ州立大学ウェクスナー
医療センター入院病棟
(米国・オハイオ州)
エレベータ計47台

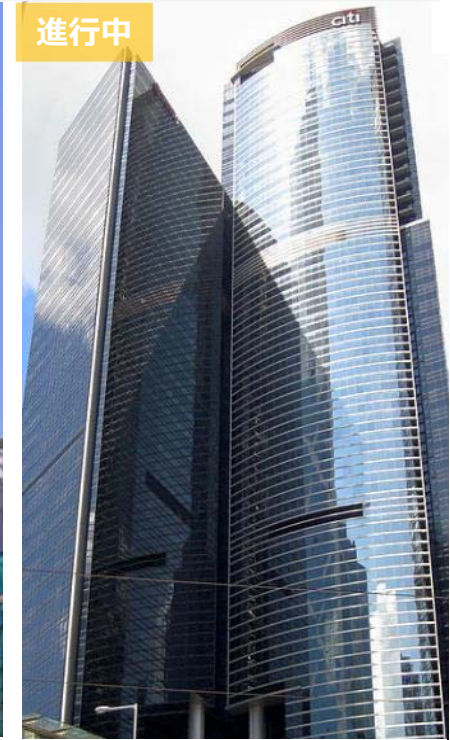
モダニゼーション工事

受注



HSBC本社ビル
(英国・ロンドン)
エレベータ計15台

進行中



Three Garden Road
(香港)
エレベータ計44台

参考資料：会社概要

FUJITEC

社名	フジテック株式会社
設立	1948年2月 (1974年2月東証第一部上場)
本社	ビッグウイング 滋賀県彦根市宮田町591番地1
事業内容	エレベータ、エスカレータの研究開発・製造・販売 据付・保守
資本金	125億33百万円（発行済株式数85,300,000株）
役員	代表取締役社長 内山高一 取締役：9名（うち社外5名） 監査役：4名（うち社外3名）
従業員数	連結 10,423名（単独 3,087名）
関係会社	34社（内、連結子会社19社） （米州、東アジア、南アジア、欧州・中近東）

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。

既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2021年5月12日現在において利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

2021年5月12日

フジテック株式会社

2021年3月期 連結業績概要

